

## 6. 実証的植栽及び生育状況等調査

実証的植栽の目的は、早生樹の利用が期待される地域において植栽を行い、植栽後の生育状況や環境への影響等について調査を行い、得られた結果を評価し、これからの早生樹導入に向けたガイドライン作成に必要な情報を整理するものである。

調査地については富山県立山町、広島県北広島町、宮崎県宮崎市（2 樹種）、熊本県天草市の 5 箇所（表 13）を選定し、それぞれ概ね 0.5ha 以上の試験地を設定して、試験地内には 2 箇所以上のプロットを設置した。

スギやヒノキ等と違い、この事業で早生樹と目されるセンダン、コウヨウザン、チャンチンモドキ、ヤナギ類は、苗木の確保は難しいところであるが、センダンについては熊本県樹苗協同組合の、コウヨウザンについては広島県樹苗農業協同組合の協力で入手可能となった。

なお、実証的植栽地の選定に当たっては、当該事業に理解を示し土地提供等の協力が得られること、苗木運搬・植栽が可能な地域であることを条件にした。センダンについては、その植栽を積極的に推進している熊本県（天草市）、また、同様に温暖で早生樹植栽に協力が得られた宮崎森林管理署管内（宮崎市）に設定した。一方、コウヨウザンについては、気候の異なる地域を選定することとし、北陸の多雪地として富山県（立山町）、中国地方の少雪地として広島県（北広島町）、九州地方の温暖地として上述の宮崎森林管理署管内の同一場所（宮崎市）を選定した。

実証植栽試験の基本的な設計は、センダンでは植栽密度の違いによる試験、コウヨウザンでは植栽苗の苗齢の違いによる試験とした。

熊本県では、センダンの植栽密度を 400 本/ha（植栽間隔 5m×5m）としている。この密度に対して、単木当たりの葉量を更に増やしより肥大成長を促進させ伐期を短縮させる視点から、200 本/ha（植栽間隔 7m×7m）の植栽密度による比較試験を実施する。植栽後の生育状況等の調査を定期的実施するとともに、植栽、芽かき及び下刈り等の作業コストに関わる調査も併せて実施し、初期保育のあり方について情報を集めることとした。

広島県ではコウヨウザン造林を今後推進する方向で各種施策を展開している。現在、コウヨウザン種苗の生産体制を整備中であり、1 年生苗や 2 年生苗の裸苗供給が可能となったところである。この実証的植栽においては、植栽苗木の苗齢と、植栽・下刈り等の作業コストの関係解析や、生育状況とウサギ等による生物被害との関係解析を通じて、コウヨウザン初期保育に関わる情報を集めることとした。